

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

これより7番宮本栄八の一般質問に入らせていただきます。

時間がないので、早速質問に入らせていただきます。

第1番目の道路行政というか、道路整備についてです。私が自分の議会だよりを配る中で、住民の方からよく聞かれるというのですかね、ということについてちょっとお尋ねしたいと思います。

これは、市道というか、国道のことですけれども、国道34号線の（パネルを示す）この里の駅きたがたさんの地図をお借りして言えば、ここの国道34号線バイパス建設中というところの北方インターにおりるところですね、ここのところに大型掘削機みたいなやつが立っていて、どういうふうになっているのかというのをよく聞かれるわけです。

それについてとですね、もう1点は武雄から山内への国道35号線の踊瀬急カーブの解消について、ずっと話はあるが、具体的に見えてこないというところで、よく住民の方というか、市民の方からお尋ねがありますので、その現状と今後の展望についてお聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

34号大崎バイパスの件でございます。これにつきましては、1.4キロメートルを既に着手されております。現在、大型機械が設置されておりますのは、地盤改良機械でございます、当面この工事が続くものと見ております。

なお、今年度の事業費でございますが、7,500万円が予定されておまして、内容的には詳細設計、あるいは引き続き地盤改良工事だということになっているようでございます。

それから、35号の西谷峠のS字カーブの解消の件でございます。これにつきましても、昨年までに調査を一応完了しておまして、今年度から用地買収に着手されるということで、事業費としては1億5,300万円を予定されております。

なお、全体事業費が明確に示されておられないので、進捗率等は公表されておられません。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

34号線のほうは地盤改良と詳細設計ということだから、詳細を設計するということは、結構進むという期待が持てるんじゃないかなと思います。

また、35号線については、用地の買収ということでいいと思うんですけれども、住民から

すれば、大体何年後ぐらいと、その1年、2年がずれても、何年後ぐらいにできるのかというのをよく聞かれるんですけども、その点、わかればお聞かせ願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もし、宮本栄八議員様にそのような市民の皆さんからあったら、それはぜひ我々行政で答えますよ。無理して答えなくて結構です。というのは、なぜかというと、震災があった後に、公共事業費の留保ということで、やっぱり数パーセント、それをもう出せないというのが、国からも来ているわけですね。あるいはもう御案内のとおり、公共用地の取得については、地権者の皆さんたちの関係、今回、その35号線に関しては、これは杉原前議長さんたちが一生懸命やられましたけれども、要するに地元の意向と別にしてJRの意向等があるんですよ。ですので、その時々で我々は、私自身も報告を受けます。受けますので、それを、じゃあ、毎回毎回市民に知らせればいいじゃないかと、宮本栄八議員様よくおっしゃいますけど、それは無理ですので、もし聞かれたら、私を紹介していただければきちんと答えます。石橋部長でもいいですし、ですので、余り曲がったことを栄八新聞とかで伝えられないようお願いしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

そういうのが市報で出ていないから、多分私がたまたま来ると、それはまあ市役所にもちょっと関係している、この際聞いてみようかなということだと思いますので、ちゃんと市報のほうで書いてもらえば、私も聞かれなくて済むのかなというふうに思っておりますので、よろしくをお願いします。

次に、もう1つは、これは私のお願いというですかね、以前から言っていることなんですけれども、若木バイパスですね、498号線、若木バイパスが陸橋というですかね、橋脚とかなんとかがつくられております。それで、そのルート発表当時、武雄市もちょうど大楠が周りの自然の環境と合体してというふうな感じで盛り上がっていた時期だと思うんですよ。それで、オカリナ演奏とかですね、そういうことで借景というのが結構大楠には大切だなということで、私はルートの的には工業団地のほうに行くほうが、工業団地からすぐ行かれるからいいんじゃないだろうかというようなことを、県の土木事務所の方ともお話をしたこともあります。

そのときは、今のルートのほうが経済的ですよということで、こちらで進めたいと。その大楠の借景については、その道路ができるところをちょっと環境に配慮してすることもできるんじゃないですかと言われたもんで、ああ、そうかなと、それで少しはよくなるのかなと

いうふうに思っておったわけです。

それで、今度いよいよ橋脚もできて、ずっと本体工事にも入ってくると思うんですけども、早目にちょっとそういうことの、大分前に言われたことをもう1回ちょっと整理して、環境配慮のことを考えていただこうかなということで質問に出しとったら、向こうのほうではちょっと今のところ全然考えていないということですので、そこについて、もう1回考えていただくようお願いしていただけないでしょうかということなんです。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、ちょっと補足的に質問したいと思うんですけども、まず、その向こうのほうでというのはどういうことなのか。それと、どのタイミングでそれを宮本栄八議員様にその方がおっしゃられたのか。それと、何も考えていないということが、本当にそれは正確な引用なのか。この3点について、補足した上で御質問を賜ればありがたいと、このように思っています。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

このルートを決定するころに、武雄市にある県の土木事務所に行って、そのルートの決定のほうは向こうの工業団地のほうがいいんじゃないですかというようなことを言いに行ったわけですよ。そのときに、あそこ2人ぐらいしかおられないんですけども、道路担当ですかね、その方が言うには、ちょっとさっき言ったような、こっちが経費が安くなるから、やっぱりこっちがいいと。そして、その大楠が今こうやっていますから、借景もと言ったら、そういうのはそこに一定の配慮をしてすれば、少しは解決するんじゃないですかということと言われたんですよ。

で、もう大分たって、担当者も今いないと思うんですけども、それをもう1回、建設というか、都市計画というですかね、建設のほうにお尋ねしたら、ちょっと向こうに聞いてもらえたんですよ。そしたら、今言うには、ちょっとそこところは今考えていないという答えがあったというもので、もう1回お願いしてもらえんやろうかということをおっしゃるわけですよ。さっきと同じ話ですけども、そういうことです。（「これ水かけ論になる」と呼ぶ者あり）

○議長（牟田勝浩君）

宮本さん、すみません、ルートを変えてくれということですか、それとも借景を何とかして……

〔7番「借景に配慮した施策をするということ、もう1回お願いしてもらえんか

と」]（「立って、立って」と呼ぶ者あり）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

借景を、景観を保全するような形で工夫をしてもらいたいということを書いてもらえんדרוかということです。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

若木バイパスにつきましては、既に着工しておりまして、今、橋梁等の構造物をつくっております。今、議員御指摘の大楠からの借景ですけど、その区間は恐らく4メートル程度の盛り土区間になるかと思ひます。そこの盛り土区間のところのりの構造をどういふふうにするかということだと思ひるので、今の御要望につきましては、土木事務所のほうに私どもとしては要望として伝えていきたいと思ひます。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

関連ですか、それとも新しい質問に移られますか。

〔7番「この1番の1番のところで」〕

関連ですね。7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

そのときは、その担当者の個人的な発想かもしれんけど、何かガードレールが見えんごとちょっと木を前に植えたりとか、ガードレールの色をちょっと白から変えてみたりみたいなことをちょっと言われておったと思ひますけれども。

そういうことで、次は道路についての市道のことです。

市道についてですね、私は一番最初議員になった平成7年ですかね、途中落ちましたけれども、7年ごろから言っていたのは、旧武雄市で甘久とか下西山が、結局、田んぼに家が建っていて、整備する前にずっとバイパスのほうに行っていたと。だから、その辺がちょっと道が旧来型のことになっているということで、甘久については大分最近、武雄高橋線とかですね、石木線ということで進んでおりますけれども、その下西山について、この間もちょっと申し上げましたけれども、ひまわり保育園の近辺といつて、担当者のほうにはわかつていと思ひますけれども、その下西山住宅から上がっていくというですかね、そこのところに三差路があるんですけれども、そこはもうずっと昔から不便であつて、普通の市道のお金ではできないと思ひますよね。だから、その公共に乗せて、その辺を栗原住宅前まで大きくはなくても、公共に乗せた形で用地補償費が出る形ですて考えていただけないものかお聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

質問の途中でありますけれども、午後1時20分まで休憩いたします。

休 憩 11時58分

再 開 13時20分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。執行部の答弁を求めます。石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

下西山の道路の件について御質問がっております。

市街地系の道路につきましては、家屋が連檐している関係上、多額の経費を必要としております。そういった意味と、もう1つは、用地の問題等で現在まで着手されていないということが予想されます。財政的な問題がございますので、その前段となる用地の承諾ができれば、一定、路線を見きわめながら着手していきたいと考えております。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしく申し上げます。

次に、2番市街地の整備についてです。この具体的内容は、新幹線も8年後に来るということで、前回も武雄駅周辺の整備についてどのようにするかをお尋ねしておりました。雨の問題とか、いろいろ個別に指摘しながらしておったんですけれども、そのときの答えとしては、今度、駅周辺整備計画というのを新幹線課というのですかね、そちらのほうで予算をつけて計画を立てるからということでございました。

そこで、それがどういうふうになったかということをお尋ねに行ったわけですが、私は駅周辺ということであったので、駅の周り全体のことを考えてあるのかなというふうに思ったんですけれども、（パネルを示す）そのコンサルタントに出して戻ってきた内容を聞きますと、それについては、ここの清本跡地とか、駅の南のロータリーに関しての計画だけだったということがわかったわけです。ああ、そうですか、全体ではなかったんですかということで、まあ、それならそれでいいですと。そしたら、どういうふうなコンサルタントの計画が出されていますかということをお尋ねしたら、4案出ておりますと言うわけですね。おお、4案もと、いろいろ選択肢はあるなど、これはいいなというふうに思ったら、その4案ともほとんど同じような内容なんですよ。

それは、どのような内容かということ、この清本跡地を駐車場と住宅にしましょうと。そして、ここの中央の道路の緑化というのは今でもされております。それと、もう1点大きな部分は、川良永松線ですかね、今度新しく駅を横断する道路を昔の計画というのですかね、もと

の昔の計画みたいに下までおろして曲げていくと。途中は、これが経費がかかるということで、ロータリーのほうに行くようになっておりますけれども、こう引っ張ると。

ちょっとこれはこれでいいんですけども、ただ、この清本跡地が単に駐車場と普通の住宅でいいのかなと、そういうふう思ったわけですよ。これまで武雄市が開発公社にここを所有させて、多分15万円ぐらいの土地を買ったのが、金利を重ねて30万円ぐらいになっておると思うわけですよ。その目的は何かというと、駅前に一体的な土地を確保して、将来的に、何ですかね、広さというか、このスペースを生かして何かをするということであったと、この間までずっと思い込んでおったですね、何十年間。しかし、今度、いや、普通の駐車場と住宅というなら、もう10年か15年前に15万円で売っておったほうがよかったんじゃないかなということも思うしですね。

その辺でもう1回ですね、何でそういうふうになったかということ、結局、新幹線が来ても、1日に300人しかふえないと、1割ぐらいしかふえないと。だから、そういうふうになんもお金をかけてもいかに理論になっているみたいですね。

それはそれとしてですよ、結局、4案あるなら1案ぐらいは、ここを共同でバスセンターというですかね、旅行会社が集まるとか、よそで言えば県の施設のようなものを連れてくるとか、そういうふうな案ですよ、4つともが住宅と駐車場じゃ選択肢が限られていると思うわけですよ。だから、その辺の高度に、金を使うといかんですが、高度利用の部分、平たん利用の部分、また違った利用の部分とかですね、3種類ぐらい違う案にしてみようことはできないんでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

お答えします。

清本跡地についてでございますが、清本跡地につきましては、昭和52年に当時の佐世保線の高架計画や富岡の土地区画整理事業に伴う駅周辺整備ということに対処するために購入されております。その後、新幹線計画が加わったために、新幹線も含めて周辺整備を図るといふ目的は今も変わっておりません。

今回、平成22年に策定をいたしました整備構想の主な目的につきましては、新幹線開業に伴いまして、利用者がどれだけ見込めるのか、そして、その利用者に見合う駅前広場の面積はどれぐらい必要なのかと、それから、駅前に必要な施設は、じゃあ何なのかということで策定をいたしております。必要な施設をゾーニングしていく中で、駅前広場と街路とありますが、この2つに囲まれたエリアだけでは足りないというふうなことで、今後、清本跡地も含めて検討をしていくというふうなことになります。

議員おっしゃいました4案ということでございますが、このゾーニングを検討していく中

で、やはり場所的なものの設定をするだけではなかなか具体的な姿が見えないというふうなことで、4案ほどコンサルに例示をしてもらったものです。おっしゃったように、駐車場と代替宅地しかないというふうなことをおっしゃっていますけれども、これも一つの例でございます。駅前広場と街路につきましては都市計画決定が必要でございますので、そのほかのいろんな施設につきましては、何をどこに張りつけるのかというのは今後また検討の対象となるわけです。

おっしゃるように、いろんな施設を入れるスペースが必要じゃないかと、それに清本跡地を使うべきではないかというふうなことでございますが、駅前に通常必要な施設として、路線バス、タクシー、自家用車の乗降場、それから自家用車の駐車場と、それから観光バスの駐車場等も検討はもちろんいたしております。また、南口、駅の玄関口としてふさわしい施設としましても、飲食店とか、コンビニだとか、レンタカー、オフィスビル、さまざまなものが必要だというふうなことで検討をいたしてはおります。ただ、今後それをどこに配置するのかというのは、清本跡地を含めて配置を今後検討していくというふうな形になろうかと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

いろいろ今から検討するて、いや、その計画案を今つくって、コンサルに出したというわけでしょう。で、4案の中から選んでいくわけですね。そしたら結局は、駐車場と住宅にしかならんのではないかなど。だから、今の時点でコンサルにもうちょっといろんな選択肢を、似たような4つじゃなくて、3つでもいいから、違う3つにしてもらうことはできないでしょうかということを行っているんですけど。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう宮本議員、いいですね。楽天的な御発想ですね。物事というのは順番があるんですよ。例えば、具体例を出すと、私が高槻市役所に出向していたときに、関西大学の誘致をいたしました。保育園から大学院までね。そのときに、まずありきはゾーニングです。ゾーニングがその当ても4つあったんですね、A、B、C、Dと。

先ほど理事から答弁いたしましたように、まず大事なのは、実際、駅を使われる皆さんの、例えば駐車場とか、バスの停留所とか、あるいは、もう少し先延ばしすると、観光バスがどこに走るとか、それが第一なんです。そのゾーニングをただけなのに、何でもこまで言われなきゃいけないというのが私の率直な見解であって、ですので、あなたが今おっしゃっているのは、我々は今、100のうち10スタートを切っている。そのときに、いや、

50ぐらいしなきゃいけないんじゃないかというのがあなたの質問なんですよ。それはおかしい。

そうではなくて、やっぱり順番というのがあります。昔、西城秀樹が言ったように、ポップ・ステップ・ジャンプであるじゃないですか。ですので、まず最初の取りかかりとしてゾーニングをする。その中で、これをもっと公式にオープンにしたときに、私もやりましたけど、関大がここに例えばやってきたりとかというのは、それは世の中にきちんとある程度ゾーニングをした上じゃないと、怖くて民間は乗れないんですよ。それを行政主導で、いや、ここはインテリジェンスビルにしたほうがいいのかというのは、僕は本末転倒だというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

私は最初、ホップのところではゾーニングがですよ、駐車場と普通の住宅になっちゃいかんというところを言っているわけで、きょう、もうこれどれだけ言ってもちょっと無理ですので、また次回のほうに質問させていただきます。

次ですね、私は駅周辺整備ということで、駅の周り全体のことの計画がされるかなと思ったら、ちょっとその南の分の一部だったということで、そしたら、この区画整理なんかで目玉となる部分はですね、まあ、さっきのとは（図を示す）昔の図面でいえば、こういうふうな絵だったと思うんですけども、もう1つの大きなものは北側の交通広場と思うわけですよ。そいぎ、その交通広場も今度の案の中にですね、まあ、ゾーニングと言われる。ゾーニングに入っているのかなと思ったけど、そこは入っていないと。そしたら今ですね、この間までは工事中で、駅の北口のところに、昔のベスト電器の跡に車をとめられたと。だから、旅館のほうから迎えに来て、そこでくると方向転換して行けたけれども、今がそこ閉鎖されているもので、今、ここの道路でUターンせんといかんと。それはもう道幅が狭くて、ちょっとできないということで、早く交通広場の整備が必要だと思うわけですよ。それで、この交通広場についてはどうなっているかお聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

北口の駅前広場につきましては、今年度工事に着手する予定です。今、議員御指摘のとおり、Uターンができない状態ですので、その辺を含めて今年度行うつもりでございます。なお、最終的には来年度の完成を予定しております。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしく申し上げます。これも以前ですかね、前つくったときには、中でくるくる回るようになっていましたけれども、将来的には中でくるくる回らんで、ここに計画道路ができるからですよ、こう外に出るようなことも考えてほしいと思っております。これはまた次回でお願いします。

次は、高架区画絡みで重要なものは、この北口広場と、あと、この間言いました共同で土地を利用する開発エリアですね。そこの固定資産税減免は市長のお力によってできたということで、川原さんの力によってできたということで喜んでおります。

それで、その横のまちなか広場ですね、まちなか広場は、最初にJRと土地を交換するときに結構いろいろ議論があったんですけども、そのときにどういう整備をするかと、そして、いや、そういうたくさんのお金はありませんので、温泉までのげた箱というですかね、車を置いて、そこから歩いていただくというふうなことで、お金はたくさんかけないでやるんですよというふうな感じで、東島部長のころはそう聞いておりました。今度の簡易な図面の中では、単なる広場みたいになっているんですけども、このまちなか広場のところも一応用地はあいているからですね、そろそろ計画的なものが必要だと思いますけれども、この辺についてはどうお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

まちなか広場につきましては、区画整理事業で取り組むようになっております。今年度着手予定です。

中身といたしましては、来訪者との交流のための多目的広場という整備の位置づけをしております。

具体的な整備といたしましては、照明設備や、あるいは周囲への植栽等を考えております。できるだけ何でも使えるような形にしたいということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

それについても何か構想とか計画的なものを発注されるんですかね。それとも、もう独自に課で考えて整備されるんでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

これは今まで議論を尽くしていますので、私どものほうで計画をして発注いたします。

○議長（牟田勝浩君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい、わかりました。そしたら、私もちょっと課のほうに意見をお伝えしたいと思います。
次に、3 番競輪事業についてです。

競輪事業については、22年度までといたしますかね、最近調子がいいというか、最後には上納金といたしますかね、交付金が最後返ってくると。そいぎ、その分で黒字になるという感じで、最近では1 億円程度ですかね、プラスになるということもあって、まあ、心配しないでいいなというふうに、ずっとこの何年間かは思っていました。この二、三年は思っていました。これですっと続いていけばいいなというふうに思っていたんですけども、今度、震災のことでいわき平ですかね、が発売停止になったみたいな感じになっておるし、全国的にちょっと売れ行きが鈍って、記念競輪といたしますか、共同通信社杯も目標に大きく届いていないということで、いよいよ競輪のほうも、そうなってくると22年度までの通常の考え方では頭を切りかえんといかんようになってきているんじゃないかなと。普通の予算というのは、大体200億円なら200億円いきますけれども、競輪に限っては様子が変わってきたなど。そしたら、ちょっと対策も練っていかんばいかんというふうに思っておるわけです。

その以前に西日本新聞に載っていた記事ですけれども、2016年には全46競輪場が赤字になると書いてあるわけですよ。これを経産省が計算したということですね。そして、どうすれば——何ですかね——まあ、その前提として、各競輪場がこのまま努力をしなかった場合、投資をしなかった場合、こういうふうになると書いてあるわけなんですよ。まあ、極端なことを書いてあるのは、競輪場を半分ぐらいに減らせば成り立つみたいなことを書いてあるわけですよ。だから、それはちょっと論外というか、おどしというか、そういうふうな感じで思えるんですけども、要は、新たな経営改善ということですかね、対策を、振興策を打たんと赤字に転換するということが経産省の計算でなっているということで、ちょっとこれはいかなんというふうに思ったわけですよ。それで、何か手を打たんばいかんと。

そいぎ、何か手を打たんですかじゃいからですよ、こっちの提案としてはですね、まず、市長は、本場のほうは赤字になってもずっとやめないということを以前言われましたからですね。そしたら、本場は結局、手を入れんといかんということになるですたいね。やめんということは、古くして置いておくじゃなくて、整備をせんといかんということになるもので、全部が全部はできんと思うんですけども、私は女子競輪も始まりますので、少し第1 発売所の辺を佐世保のように、一空間というですかね、禁煙がある空間とか、そういうふうに分けたらどうなのかなというふうに思っているんですけども、それは計画を立ててからしかできませんので、まずはモニターがですね、ちょっと言えば、今、モニターとか安くなっていますね。5 万円台でもあったりするわけです、大きなやつが。だから、いっぱいモ

ニターはあるんですけども、ちょっと色があせて古くなっておりますので、その辺のモニター整備ぐらいをまずはしたらどうかと思いますけれども、何かそちらのこれに対するお考えがあったらお聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、初めて適切な御指摘を伺いましたね。私も全くそこは同感ですよ。まず女性、そして、その中でも若い方がお見えになると、男は上田議員、引きずられて行きますもんね。ね。——はい。ですので、そういうことで言うと、私とすれば、やっぱり女子力を活用するという、それを呼び水にしたいという意味でいうと、先ほどモニターであるとか、あるいは先ほど出てきましたけど、分煙ですよ、禁煙のあり方であるとか、そしてやっぱりお手洗いですよね、トイレですよ。今もきれいにされていますけれども、もう少し、どういうふうになればさらに喜ばれるかということがありますけれども、お手洗いとかね。

だから、やっぱりそこは、ちょっと話は飛びますけれども、昨日、楽天の旅行ランキング、泊まりたいランキング1位が、竹林亭が全国で第1位だったんですね。その竹林亭がどういうことをやっているか、僕は小原さんと友達ですので、もう血のにじむような話を聞いていたんですよ。そうすると、やっぱり市長さん、これはもてなしばいと、ハードもそうですけど、もてなし力のアップでなると。やっぱりそれが血のにじむような努力で竹林亭が全国1位ですよ、楽天の。ですので、そういう意味からすると、ハードのそういう改修ですよ、女性とか、あるいは若い人たちの、ハードの改修等含めて、あと、もてなし力をアップということを含めてですね、そういう意味でいうと、ここは抜本的に改良しなければ、逆に言うと生き残っていけないというふうに考えております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしくお願ひします。まずは、モニターというですかね、将来の客獲得と、今の客に対するサービスというのをうまくマッチしてやっていただきたいと思ひます。

もう1点は、競輪事業がこの間、上納金が返ってきて、まあまあよくなる前の合併のときには、ちょっとこれはやばいなというふうな話もあったわけですよ。これはちょっとこのままいけば、ずっと1億円ずつ赤字が出るんじゃないかなと。その後、上納金が返ってきて、そこが穴埋めされたので、どうにかずっとやってきたというところがありました。その合併するときに、そういう競輪が大変だったので、私は市長にサテライトの増設というのを提案したわけなんです。そしたら、そのときは市長は、中国人が今そういうかけごとに一生懸

命だから、中国人を大田副市長のもとに連れてくるとかなんとか言われていたもので、もうこのサテライト話はずっとやめていたわけなんですよね。

それで、そういうことなんですけれども、その中国人を連れてくるというのもまだ見えませんので、もう1回失礼ながらサテライト話をさせていただこうかなというふうに思っているわけです。

それで、鹿児島で南九州のサテライトもですね、私がサテライト、昔言っていたころは、いや、熊本より下につくったら熊本競輪から怒らるっとかですね、そういうことでいろいろ問題が多かったんですよ。しかし、結局、1つできれば宮崎もできる、また、天文館もできるという感じでずっとできて行って、それで、ただもう御存じのように、南九州のほうは競馬のほうも来ているんですよね。いっぱい来て、もう南のほうはいかんと。だから、その当時言っていた北のほうにサテライトをつくる。サテライトで、すぐはできないですよね。あれも3年も4年もかかって根回しして行ってできるわけだからですね。だから、そういうのに取り組んでもらいたいというふうに思うんですよ。

それを何で最近思ったかという、私がチラシを配っているときに、武雄市内にお住まいの方が、宮本さん、宮本さんて、おいはこがんでポートピアの拡大の仕事ばしょんもの、こう言いんさあわけですよ。それで、いろいろ何か経産省のお偉い人の名刺とか、予定している地元のお偉い人の名刺みたいなを見せてですよ、何年かかかしようけど、こうしてやいようと言われたときに、武雄におんさあ人のそがんでポートピアの拡大で——一般の人ですけれども——頑張りよんさあないば、もうちよい市に言うてですね、武雄競輪のほうも何年かかかるかもしれんけど、結局、ほかに道がないとですよ。今、武雄の車券を売ってくれるのは、宮崎とか鹿児島でたくさん量が本場以外で売っているから、その武雄という認識は、そこまで合わせての発売枚数でなっておるわけですよ。だから、やっぱりもうちょっと発売枚数をふやすということが、田舎にいながらも武雄の存在を示して、ほかのところで売ってくれることになるのかなということ、ちょっと話は長くなりましたけれども、サテライトの新設に対して検討していただけないか、お聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

検討します。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

ありがとうございます。よろしく願います。ほかに何か道があれば、ほかの方法でもいいと思いますけれども、まずはちょっとそれしかない、経費節減か、それしかないかなと

いうふうに思っております。

続いて、住宅政策についてです。

以前ちょっと私が住宅について、今度の和田住宅が5階建てというのを聞いて、物すごく驚きました。私は合併前の、まあ、和田住宅も古いねとか、いろいろ改築ですね、下山住宅とか、改築するときいろいろなところを検討する中で、その当時の方と思いますけど、木造で建てかえて、県産材を使って、畳も入れてみたいなことを言っておられたからですね、ずっと頭にそれが残っておったわけですよ。見るたびに、ああ、そういうふうに建てかわるんだなというふうに思っていたわけですよ。

それで、5階建てだと。それはそれでいいのかなというふうに思うんですけども、ちょっと言えば、この間も言いましたけれども、今度建てかえるやつをビル形式にずっとしていいたら、どれだけ金がかかるのかなと思うわけなんですよね。普通、アパートなんかは5万円で貸せば、1部屋五、六百万円と。じゃなかぎ採算のとれんと、こう言われるわけですよ。ばってん、この和田住宅を単純に計算すると1,000万円ぐらいなると、1部屋ですね。そいけん、これじゃちょっと、まあ、もともと元の取れんということでやっているのかもしれないけれども、そういうふうになってくれば、今、武雄市の住宅計画は、この間の住宅マスタープランになっている市営住宅の状況を見てみると、50%ぐらいですよ。41%はもう耐用年数を半分以上経過したと。そしたら、ずうっと建てかえのときには耐用年数に来るということだから、ずうっと全部つくりかえんばいかんということになります。(パネルを示す) そいぎ、ここについている赤とか黒いところは、もう耐用年数を過ぎているんですよ。この黄色のところも耐用年数を迎えると。そしたら結構高い、総額にしてみれば相当の金額になるんじゃないかなというふうに思うわけなんですよね。

〔市長「なりません」〕

ならんですか。ならんならよかですけども。

だから、なるかならんかのこれを全部建てかえたときの中長期の財政計画、今度、和田住宅は44年てなっていますけれども、私がこの住宅がしばらく建てかえがとまっておって、何しているんですかと。今、住宅マスタープランをつくっていますよと。2年ぐらいとまっておった。そしたら、今度始まったら、どこから建てかえますかと聞いたら、古い順に建てかえますて前の部長は言われましたよね。でも、これを見れば、古いのは小原住宅ですよ、北方の。41年。和田住宅は44年というふうになっておまして、これ自体もですね、順番づいけも言われるように古い順にはなっていないわけですよ。

だから、私が今回提案したのは——そして、これが構造もあるですもんね。構造もあるんですよ。だから、和田住宅も全部が古いわけじゃなくて、新しいのは47年になっておるんですよ。だから、この全体のいつごろ建てかえて、金額は幾らなのかというふうな計画をつくってもらえんかなと。そこで市長が言うように、大して金かからんなら全部鉄筋に、ある

程度かかって、これは財政的に早うつくればよいということであれば、一部、何ですか、簡易耐火づくりというのですかね、今、木造はないとかしれんですけれども、簡易耐火づくりで、本当の耐火づくりにしないとかですよ、そういう計画をやっぴり立てんといかんとやないかなというふうに思うんですよ。そうせんと、なかなか先に進まんというふうに思いますけれども、お答え願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さきの議会から再三申し上げますとおり、特に議会における引用については、議会の答弁等に関する引用については正確にさせていただきたいと思うんですよ。補足的に質問しますけれども、先ほど、前の部長が古い順から建てかえるという話をされましたけれども、それはいつの、だれに対する質問で、何月何日に、その部分というのをきちんと引用していただければと、それをまず最初にさせていただきたい。

私も全答弁は決裁しますので、少なくとも私に記憶間違いがあるかもしれませんが、私の記憶の中では古い順から、そして、建てかえ可能なものから建てかえていくという趣旨で前の部長が答弁したという記憶が私にはあります。そういった意味で、古い順から全部アプリオリにやるということではないというふうに思っていますので、まず、議員のしっかりとした見解を伺いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

古い順と言われたのは、前の部長ですね。そして、私の質問に答えて、どういうふうに今後していくんですかと、その順番のあれがないんじゃないですかと言ったら、まずは古い順からしていくと言われたからですよ、そしたら、古い順なら別に問題ないでしょうということそのとき私は答えたと思います。そう古い話じゃないと思います。（発言する者あり）それは後で議事録を調べてください。前の部長が古い順にと言われて、ああ、そうですかと言いました。そしたら、古い順じゃなかったら、どういうことですか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

でたらめな引用はやめてくださいよ。

〔7番「でたらめじゃないて」〕

でたらめじゃないですか。でたらめな引用はやめてください。

〔7番「でたらめじゃないて」〕

それで、私の答弁をもって公式な見解にしますが、まず、古い順というのはそのとおりであります。しかし、全部古い順で、例えば、昭和41年が43年に全部それは優先するかというのは、そんなことはありません。だから、耐用年数の関係であるとか、あるいは、その地元のニーズであるとか、そういう——私は訴訟で訴えられていますので、財政の問題であるとか、そういったものを加味した上で、我々としてはそうやってやっていくと。ですので、議員がおっしゃるように十把一からげとか、チャンポンであるような指摘はぜひ慎んでやめていただきたいと、こういうように思います。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

前の部長はそういうふうに言われました。古い順みたいなことを言われました。それで、結局ですよ、私が今回言いたいのはそこじゃなくて、全体の建てかえ計画をつくって、総額をはじいてですね、それでグレードを出していかと、鉄筋、鉄筋でいきよって、次、鉄筋じゃなくて、なしやという話になるから、全体の計画を立てて、いや、ここはニーズ的に耐火でいいですよと、ここは準耐火というですかね、ビルじゃなくてもいいですよとか、そこを話し合っただらば、早く建てかえが済むと思うわけなんです。小原住宅の辺の人なんか、何かムカデが降るとかなんとか言われていますので、早くしてもらいたいのが趣旨であって、武雄市を責めつけようとか、そういうのはないとですよ。

だから、安い金額というですかね、普通の民間アパートぐらいで、いいつくりであるならば、そういうのもして多く供給するということも意味があるんじゃないかなと。そのためには全体の計画を立てて、市長が、いや、そのくらいの金だったら、全部ビル建ててでいいばいと、鉄筋コンクリートでよかばいと云ったらそれでいいと思うですけども。だから、その総額がわからんからですよ、あと半分修理せんといかんですけど、ここの西杵からいえば、西杵は昭和50年に建てられておるとですよ。それが新しいのの第1発目になっておるわけですよ。それからいって、半分きれいにするのにも物すごく時間がかかっておるわけですよ。だから、その全体的なことを計画を立ててもらえんやろうかということをお聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

御指摘の計画性の問題でございますけど、一般的に計画は10年程度だというふうに理解されますので、全体にこれが古いものが改築したときに当てはまるかというのは若干問題があるかなと思います。そういう意味では、財政当局とも打ち合わせしながら計画はつくりたいと思います。

それから、議員何か、私がちょっと誤解しているか知りませんが、建てかえの費用は鉄筋と木造では木造が安いというイメージを持っておられるようなんですよ。実は、私どもの標準建設費、これは国交省が示している国の補助基準です。これについて見ますと、差はほとんどございません。差はありません。

それから、もう1つです。建てかえにつきましては、その立地場所によって、高いのか、低くなるのかというのは条件がありますので、すべてが鉄筋ということじゃなくて、木造もその中の一つの選択肢に入っているということだと思います。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

高層に建てれば鉄筋も変わらないんですけど、普通は木造とLCAですかね、と鉄筋とすればですよ、坪は40万円とかではできなくて思うとですけどもね。まあ、それは違うんじゃないかなというふうに私は思います。

まあ、そういうことでですね、言いたいことはいろいろもめたように言っていますけれども、要は、そちらも早く古い住宅を多分、何というか、修理に行くときに言われると思いますので、できるだけ早く建つ方法というですかね、そういうのを考えていただきたいなど。その公平性を保つためには、一つの計画があってですよ、10年計画なら10年計画でよかやなかですか。10年から漏れとうぎ、ああ、自分のところはこれから考えれば20年後だとか、25年後だとか、想像もできますので、まずは10年でもいいですので、計画を立ててください。よろしくお願いします。

それで、次、5番目、学校施設の整備についてです。

これも何回も言っておりますけれども、まず、武雄小学校の件です。（パネルを示す）現在の武雄小学校のつくりはこういうふうになっておりまして、体育館がここにあります。で、校舎がこうあるんですけども、この体育館を今度、この校舎の裏のこっちのがけと、こっちが上りがけというですかね、こう高いところとですね、その間のところにつくると言われるわけですね。そして、この間口も、ここにちゃんと記入してありますけれども、5メートルというわけなんですよ。

だから、ちょっと私はこの震災対応を考えると、災害とか社会スポーツの拠点の体育館をこの裏につくる必要はないんじゃないかなというふうなことを言いますと、いや、用地がないからと、こう言われるわけですよ。だから、保育園のところとかも言いましたけれども、これを合体すると、物すごく複雑なことになるからですよ、まずは体育館をこのプールのところにつくってですよ、そして、校舎を下げると。そして、教員の先生からプールが見にくいと言えば、この辺でもプールをつくれればいいんじゃないかなと。この辺というか、庭というですかね、花壇がある辺につくられんかなというふうに思うんですけども。

やっぱりこっちに体育館をつくると、そのかわり、下にまた坂道を、道路をつくると言われるわけですね。でも、昔の武雄小学校は、こっちのほうからもたくさん来ていましたけれども、今の武雄小学校は分離して、こっちから来る人が8割なんですよ、反対側から来る人が8割なんです。だから、やっぱりここはですね、このプールも昭和五十何年ですかね、50年代にできているもので、この体育館をプールのところに移す。で、プールをここなり、ここなりに移すというふうにしてもらいたいと思うわけなんです。

だから、これを私が言うてどうのこうのというか、この計画はパブリックコメントはとっていないと、こう言われるわけなんです。で、教育関係者とかその辺で、代表者で決めたというふうなことになっているんですけども、これを再度、区長会なり、まちづくり協議会なり、パブリックコメントなりとってですね、本当に災害のときに、こののがけが崩れてきたら物資なんか運べんようになるわけなんです。だから、本当にこれで地域の人がいいと言うなら、それを私がいろいろ言う必要はないですけども、もう一度再考してほしいということがあるかもしれませんので、まずは第一歩として、この計画についてもう一度地元というですかね、区長会なり、まちづくり協議会にこの計画案を吟味してもらうことはできないでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

配置計画の見直しは、今のところ考えておりません。これについては、今年の議会の中でも申し上げましたけれども、建設検討委員会の中でいろいろ議論をして確認していただいていますし、なおかつ、建設検討委員会のメンバーの中にはまちづくり推進協議会の会長、あるいは区長会長さん、地元周辺の区長さん、それから育友会の方、そういう方たちに入っていて検討しているところでありますし、今年の9月か12月の議会のときも答えたように、例えば、端的に今いろんな、プールのところに体育館をつくったりとか言われていますけれども、全体的な配置計画を見て、あるいは児童の動線、そういうものを考えてつくったところでもありますので、そういうことでぜひお願いをしたいというふうに思っています。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

そのときに震災のことも議題になりましたかね。ちょっとお尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

9月の時点では、震災の話は当然しておりません。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

今、武雄小学校とか武雄中学校とかですね、武雄中学校は特にまだきれいにしておくと、あれを解体するんですかと言われるぐらいなわけですよ。しかし、何の目的でしているかといえば、震災対策で移動しているわけなんですよ。だから、今度移るときも、震災が起きたら、この体育館はどう活用されるかとかですよ、それはやっぱり当然考えてすべきであつてですね、この間も担当者に聞いたら、体育館は壊れませんと、こう言うわけですよ。いや、体育館は壊れん、それは耐震基準にのってつくるばつてん、その隣のがけの崩れたりして行かれんごとなつぎどがんとね、それを答え切らんわけですよ。だから、もう1回考えてもいいというふうに思いますけれども、これはもう施設の問題というよりも教育全般というのですかね、そういう問題としますので、教育長はどうお考えですかね。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

3月11日の震災以前に、我々は耐震と、もう1つは災害というのは絶えず考えてやっております。やっぱり子どもの安全・安心というのが市民の安全・安心に直結するという意味では、それはもう当たり前の話であつて、先ほどよく議員が、あれって思うのは、いや、担当者が答え切らんという話がありましたよね。余りそれはこういうところ出さないほうがいいと思うんですよ。担当者があきれて答えんという場合もあるわけですよ。ですので、それをもってあなたの御高説に答えられないではなくて、もうこれは答えんほうがやっぱりもうよかという判断も私にもありますよ。

ですので、そういう意味でいうと、このがけの話ということは、いろんな施設を建てても、それは同じ話なんですよ。それはたまたま体育館というだけであつて、ほかの施設があつたときも当然同じ話が出るんですよ。ですので、ここで大事な問題は、これは危機管理の鉄則ですけども、例えば、がけが崩れたときに、1つだけの逃げ場所だったら、それはアウトです。しかし、2カ所、3カ所の逃げ場所がきちんと確保している、そういった意味からすると、私がレクを教育委員会から受けた限りでは、そこは十分担保されていますので、議員、心配には及びませんので、ぜひ議員活動に邁進してほしいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、だれが考えても、この間、ほかの人に聞いても、いや、これはいかんねて。震災もあるけど、バレーボールとかなんか、女性の方の行くとでもちょっと暗過ぎねて。もっと聞

いてみてくださいよ、はっきり言うて。一般の人に。そういうふうと言われるわけだから、はっきり言うて。だから、担当者はこの耐震については100%自信を持っておるかもしれんけど、この辺のがけが壊れてくるとか、そういうのは何もないわけだからですね。だから、絶対、逃げ道が何個もあるて、ないじゃないですか、ここ囲まれているじゃないですか。

(発言する者あり) だから、こののがけが崩れて、このスロープが崩れたら行かれんごとなあじゃなかですかね、というふうに私は思いますけれどもね。そいぎ、これもまた次に回したいと思います。

続いては、武雄中学校の件です。(パネルを示す) 武雄中学校を新しく建てかえた後は、このテニスコートの4面については何か地元と話し合っていただけということ納得しております。次は、ここにある武道場をこっちに持ってくるということですがけれども、私の考えでは、よその武雄中学校と同規模の中学校の体育館に行ってみますと、武道場というか、町のところの中学校の近くはまだ別に武道場があったりですよ、兼用したりしてありますけれども、普通、そういう形じゃない中学校の武道場というのは体育館と包含されているわけですよ。だから、これも別々につくらずにですね、1つにつくって、今、このもとの給食室の古い建物で卓球をしておりますけれども、この卓球も次にまた場所が要るんですよ。だから、この卓球も含めて、この通路のところを合体して広げたらどうでしょうか。簡単に書きますと、バレー、バスケット、そして2階に卓球と柔道があって、その卓球場のところが下の観客席にもなっているんですね、よそのとを見ればですね。だから、合体したほうがより有効に活用できて、卓球部の場所も確保できるんじゃないかなというふうに思いますけれども、御見解をお聞きします。

○議長(牟田勝浩君)

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

武道場と体育館の整備につきましては、一体型がいいのか、個別の単体にするのかですね、それは今、議員は合体したほうが利用しやすいとか言われていますけれども、利用する学校の考え方、あるいは建設費用、維持管理費、そこら辺総体的に、もう少し工夫を重ねながら検討してみたいということでは考えております。

○議長(牟田勝浩君)

7番宮本議員

○7番(宮本栄八君)〔登壇〕

私がここで物すごく言っているのは、基本設計というか、配置計画だから物すごく言っているとですよ。これが実施計画、詳細設計に行ったら、結局もう動きがとれんからですね、だから、さきの武雄小学校の件もそうですけれども、配置計画のときに物すごく話し合えば、ちょっと言えばもう支出は要らんというですかね、どがん話し合うても支出は要らんけど、

もう設計に入ってからにはまた設計のし直しとかなんとかなくて金がかかるので、今の時点でですね、本当は将来からの批判に耐えられるような形で、ちょっと耳を傾けてほしいというのですかね、筋は筋でいいんでしょうけれども、ちょっと耳を傾けてみると、そういうことも、この原発にも同じことも言えるとじゃなかですかね。国家戦略だから、よかろうもんということじゃなくて、まあ、ちょっと疑問にあることには耳を傾けながら進んでいくのも必要なことじゃないかなというふうに思っています。

で、よろしくお願いします。柔軟にお願いします。結局、利用者が一番便利な形というのが、武雄市も私も望むところでございます。

続いて、保健医療についてです。

旧市民病院から新武雄病院にかわっております。それで、1つ思うのは、24時間365日と言われますけれども、小児の夜間救急というのは医師会のほうでやってあると。ということは、小児のほうは医師会のそっちのほうに行っていただくというような形になると思うんですけれども、そこに結局、CTというのですかね、何か吐いてもおるばってん、その後、ちょっと倒れてもおると。頭もちょっと見てみたいなというときに、今できんわけですもんね。だから、新病院がMRIだけでいいと、CTは要らんとかですね、CTは安く買いたさあとかいうことであれば、医師会の小児の急患のほうにCTを置いて、子どもに対応できんかなというふうに思うんですけれども、この辺についてお聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

旧武雄市民病院で利用していた医療機器についてでございますけれども、議員、部分的に活用という話でございますけれども、巨樹の会のほうでは、現在まで使われていた部分についてはすべて活用するというところで話をしておりますので、別々に医療機器を使うということは考えられないというふうに思っています。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

全部要ると、そのまま持っていかれていいですけれども、そのCTは幾らで買われるかですたいね。そいけん、本来言えば、小児を医師会に頼むとすれば、本来、武雄市がCTまで用意して子どもの安全を守ることが一番理想ですけれども、新品を買うのはなかなか難しいと。そしたら、今度の新病院に幾らで売るかですよね。相当高い金額で売るならあれですけれども、安い金額で売るならば、もうそのCTだけは売らずに、こっちのほうに利用したほうがいいんじゃないかなというふうに思いますけれども、CTの値段はそしたら幾らになっているんですか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、でたらめだと思いますよ。基本的に医療というのは継続が第一なんです。しかも、それをこっちのほうからあさっての方向に、医療機器というのは精密機械でもありますので、それを移すというのは、私は論外だと思っています。そして、使用機器については、これは再三答弁しておりますとおり、ある時点をもって、その価格をもって受け渡しをするということにしていますので、必要とあらば後で担当部長から答弁いたさせますけれども。

そもそも私が宮本栄八先生の質問であれっていつも思うのは、現場を御存じなのかということなんです。私はこの関係で以前、小児救急の私は会長でありますので、そういう協会に出たときに、あれはたしか古賀医師会長だったと思うんですけども——ああ、違うか、中島さんだったかな。と思うんですけども、中島さんのほうから、いや、これこれの機材が必要となるから、そのときは市は応援をお願いしますねというふうにおっしゃったんで、私は医師会大好きですので、はいということも申し上げたんですね。そのときにCTの話なんか一言も出てこないんですよ。

ですので、先生ね——ああ、宮本栄八議員先生。ちょっと私も動揺していますけれども、それはやっぱり医療の現場のことは医療の現場に任せて、その上でCT云々ということが本当に必要とならば、それは医療行政の枠内でちゃんとやります。ですので、ぜひですね、CTをこっちからこっちということに関連論、宇宙論でおっしゃるのはいいんですけども、一たん行ってCTを受けてみて、それで、その上で、これは本当に移設可能かどうかというのも含めて、それをごらんになった上で質問されたほうが、市民の皆さんたちがより理解が深まると、私はこのように考えております。

いずれにしても、私としては市民医療の継続が第一でありますので、それを移管すると。そのときに適正な価格をもって譲渡をするという大原則にはいささかも変わりはありません。以上です。

〔7番「CT幾ら」〕（「値段わかりますか」と呼ぶ者あり）

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

今、ここで一つ一つの医療機器について、1点ずつの規格を申し上げることはできません。以上です。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

私たちに渡されて、これから類推できるじゃなかですかね。またほかの計算があるとですかね。

そいぎ、ちょっとそれは別としてですね、今回言いたいのはそこじゃなくて、子どものあれを頼むなら、やっぱりCTも置いてやって、そこで頭もどうも転んどうごたあと。そいぎ、一緒に見られるごとせんぎんた意味がないと。例えば、私も反対はしていましたけれども、新病院ができると。そいぎ、できた後のフォローを何か考えんばいかんと思うとったわけですよ。そいぎ、まず、どういう状態になるかなと。ちょっと小児のほうは医師会に頼まんばいかん。そいぎ、向こうのできんところをフォローアップするためにはCTば買わんばいかんじゃないかなと。そいけん、市長の話じゃ、新病院絡みじゃなくて、子どもの休日急患をするに当たって、医師会のほうがCTがあったがいいというふうに要請されれば、そろえる気はあるということですかね。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

特に、宮本栄八議員におかれては、新武雄病院のことに関して反対を、これは、いい、悪いは別ですよ。反対をされたんで、私と多分、同じぐらい勉強されていると思いますので、まさかそんな方からそういう質問が出るとは思えないんですよ。いや、医師会がCTが欲しいから、じゃあ、CTを買い与えるかって、そんなことあるわけないんですよ。

医療というのは先ほども申し上げたとおり、継続性と連携というのが必要なんですね。ですので、例えばこの場合に、小児救急だけ申し上げますと、1回、例えば医師会の外来のところに来ましたと。来たときに、いや、これは検査の必要があるねといったときに、これは可及的速やかに嬉野医療センターできちんと小児救急をはかるというのが一つの流れになっているんですよ。その上で、嬉野医療センターの中でどういうふうにするかと、いや、これはその必要はないですねといった場合には、また、いや、それはかかりつけの病院に、例えば、太田医院に行ってくださいとか、しちださんのほうに行ってくださいとかというふうになるわけですよ。

ですので、基本的に医師会の外来のところ、センターがすべてそこで行うというのは、それは無理です。みんな協力して、やっぱり自分たちのボランティア精神に基づいてやっておられるんで、そこにかぶせるというのは無理で、そこは後方支援病院としての——だんだんチャームが私の気持ちでも鳴ってきましたけれども——そうではなくて、要は、そこは連携のところだと思うんですよ、連携だというように思っていますので、余りその——私、物すごく議員に不信感があるのは、市民病院で十数億円でしたっけ、あれを栄八通信に書かれてね、市民の皆さんたちはみんな、あれって、不信感とか不安感とかあるわけですよ。ですので、やっぱりそこはきちんと、思いつきではなくて、やっぱり特に医療の関係というの

は、これこれの問題があるからこういうふうにするべきだということをしないと、非常にそれは危ういて。みんなね、栄八先生のこと信用していますよ、本当に。僕は信用していませんけどね。だから、みんな大半の人がそうであるわけだから、それはしっかりとした、思いつきのような質問ではなくて、こういうことで、ここで、こういう論拠で問題がある。例えば、北九州のこういう病院でこういう問題があって、こういう事例があるからこうしようとかいうのであればいいと思うんですけど、単にCTが余るから、それを1つだけ移管したほうがいいんじゃないかとか、あるいは、もう通告もないのにCTは幾らだとかということをするのはどうかなと、私自身はそう思っております。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、結局、前は市民病院のときには、夜間行ってですよ、何か吐いた、転んでもおっごたつ。CT撮れたっじゃないですかね。だから、それと同じことができればいい言いよっじゃないかですか、機能面では。ただ、売る売らんについてはあいばってんですよ。（発言する者あり）いやいや、そこで打ったくっつぎんた、前の市民病院でも撮いよんさったでしょうもん。（発言する者あり）そいけん、撮れよったとよ。同じような機能が補完されんかなと思うとうだけの話ですよ。何もいろいろ言いようわけじゃないかですよ。ただ、前はそがんで市民病院に行けば、頭打ったくつくない、その何かば見てCTも撮いよんさったじゃないかですか。撮ってないとですか、子どもは。そがんことはないでしょう。だから、それが分離されたら分離されたところだけを、その機能を補完してもらえんのかて言いようだけの話ですよ。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは思いつき質問の最たるもんですね。基本的に医療の原則というのは、CTというのも医療行為の端緒であるわけですね、始まりである部分ですので、少なくとも私が市民病院医療であなた方からさんざんやられたときにね、勉強したときは、それは子どもたちの医療というのは、CTであっても、MRIでも撮っていないということ、特に夜間については、これは立ち上げるのに物すごい時間がかかるんですよ。ですので、私も、これはプライベートな話になりますけれども、1回、尿管結石で夜行ったことがあります。そのときに、やっぱり撮れないと言われましたよ、市民病院から、撮れないって。何でて言ったら、いや、夜間ですから。私、痛いんですけどと言ったら、夜間ですから。ちゃんとスタートする時間に来てくださいて。僕はこのときに、やっぱり今の市民病院に対していかなものかなて思いましたね。

ですので、それはちょっと余談になりますけど、少なくとも私が現場から聞く限り、あるいは私が夜間、市民病院に行ったこともありますけど、少なくとも私が知る限り、子どもたちの、小児のCTとかMRIを撮っていたということは、私が知る限りはないです。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

市民病院では、子どもの夜間はCTを撮っていなかったと、だから、今も一緒じゃないかということですかね。私ももうちょっと調べさせていただきます。そんなことはないと思いますけれども。

続いて、ちょっと時間がないので、次、保育行政について、武雄保育所の早期移転についてです。

これも震災に関係するんですけれども、結局、何回も言っておりますけれども、平成16年に、もうその時点で老朽化しているので、近隣に移転するということでもあります。そして、公立で移転するということでありまして、公立で移転する理由は、民間には取り組みにくいことをするからということでありました。

しかし、今回、取りまとめて考えたところ、私は休日保育というのが普通のところではできんと思うとったわけですよ。今、日曜、祭日にしてあるのは、一時保育的なものの日曜版で思うとったわけですよ。そしたら今回、担当者とよくよく話すと、私が言っている日曜日を普通にですね、先ほど障がい児の件で一時的なものと、そうじゃなくて、ちゃんと行けるところをというふうな意味の休日保育で私はずうっと話をしていたんですよ。今度ずうっと話をしていたら、いや、休日保育というのは、一時的に日曜日おらん人をいろんなところから集めてくるのであって、その園の人が日曜日に来るんじゃないんですよと、初めてわかったわけですよ。

そいぎ、私が言っているのは365日保育と、こういうふうに言うわけなんですよ。ああ、そうですかと。そしたら、武雄市が目指している休日保育というのは、今やっている9人ぐらいの一時的な休日の保育であれば、何も前から言っているように、公立でしなくてはいけないということではなくて、このくらいのことなら民間でできるとやないかなと、ちょっと思ったわけですよ。そいけん、何を目指しているのかが、私が今までこの16年間聞かなかった私も落ち度というですかね、そんなのがあったのかなと。もっと公立ですばらしいものをするのかなと、目指しとるかなと思ったわけですよ。そしたら、今ぐらいの休日保育というわけですよ。

そして、もう1点あったのは、市内の拠点の保育所になると、指導する保育所になると。それは私も当時、民営化するときに、鹿島が1つだけを公立で残して、そこがその他の保育所の指導というか、そういうリーダーになるということだったので、武雄も同じようなまね

をするということで、ああ、いいじゃないですかとっておったわけですよ。そして、今度また改めてこういうことがあったもので、鹿島のみどり園はほかの園に指導をしていますかと言ったら、そんなことはないと言うわけなんですよ。同じ保育園同士だから、何ていうのかな、そういうのは子育てセンターとか、そういう第三者的なものがするものであって、1つの保育園がほかの保育園を指導するものじゃないよみたいなことを、ちょっとほかのところも聞いたわけですよ。

そしたら、何だったと、ここまで公立、公立で、私が言いよったのは、別に民間ででくっことやったじゃなかかなと思ったわけですよ。それで、もうこうなってきたら、その辺があって、この間、部長がですよ、この基本計画ですかね、見直さんといかんと言ったのは、そういうところもあるのかなと思ったわけですよ。

それで、私の言うような休日保育、昔、ゆめタウンなんかができたときに、日曜日にも普通に働いて、日曜日働く人歓迎みたいところやけん、日曜日の保育は絶対要いばいて言いよったとは、24時間保育やったわけて、さっき言いましたよね。そいぎ、インターネットで見ると、365日保育は民間でいっぱいしちゃあですよ。鹿児島なんか公立でもしてあるところも一覧表がばあっと出てくるから、何をしています、何をしています、何をしています、こう書いてあるから、もう一覧表を見れば、ばあっとわかる。この地域にはこれがあって、こうというふうにわかるわけなんですよ。

だから、もうここは頭を切りかえて、民間保育所にしてですよ、早く休日保育の一時的なものをしてくれる業者を見つけて、新たにつくってもらったが早くないかなと。それが子どもを守る耐震対策の一番あれかな。これを公立でまた認定こども園がどうのこうのといっ、ずうっと引き延ばされてですよ、耐震がないわかって、小学校もこうしてつくって、保育園生は危険にさらされていると。ちょっとこれじゃいかんということで、今回はもう早く耐震を免れるためには、公立でなくてですよ、民間で休日保育を受けてくれるところを探して、速やかに動いた方がいいんじゃないかなという提案ですけれども、お答えを願います。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

ただいま議員から御提案いただきました内容等も含めまして、公立保育所の役割及び管理運営に関する計画等の見直しをやっていきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

見直すのは早く見直してください。私は、まずは公立でいって、その後、それをまた売っ

てもいいんじゃないかなと、民間になったときは、そのときまた売ってもいいんじゃないかなという提案もしていたしですね。そいけん、どっちが早いのかをやっぱり計算してですね、まずは子どもの安全、それから、民間なのか公立なのかは次の段階でいいと思いますので、まずは子どもの安全を第一に、こういうときだからですね、何というかな、もうわかった上でやっているわけだから、早目をお願いしたいと思います。

続きまして、次はまちづくりについてです。

協働まちづくり交付金が、ふるさと創生の1億円を集めた基金の中から1億8,000円ぐらいあったと思いますけれども、1億円を24年までに3年間ですということでも渡されました。その残が1,800万円あると思うんですけども、この間の質問では、まちづくり交付金はもう24年度以降はしないということは聞いたんですけども、この残については、また配分してもいいんじゃないかなというふうに思いますけれども、この点についての考え方についてお聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、財源については、基本的に財源に色があるわけじゃないですので、全体として考えたというふうに思っています。この2,000万円を繰り越しにするのか、配分をするのかというのはまだ決めていませんけど、いかんせん住民訴訟が延びていて、これにまた過大な税金が投入されることになりかねませんので、そういう意味で全体の財政計画等含めて、この2,000万円、1,800万円余ですけども、どういうふうにしていくかということは決めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

できるだけ地域にというか、これを言うと、ちょっと批判を浴びるかもしれませんが、最初のふるさと創生1億円というのは、北方の方は街路灯ですかね、山内の方は何か海外との交流というですかね、そういうのであって、武雄はですよ、角さんがそのときに担当者だったと思いますけれども、広い公園をつくらうとかなんとも言いよったですよ。でも、結局したのは、大楠のビデオをつくって、何か交流というですかね、あそこと、熊本県と交流をしたですよ。それで——ああ、そうか。柏岳の一部を購入したですよ。全部使っていないんですよ。それがきっかけで私は議員になったのもあるんですよ、はっきり言えば。住民にあれだけアンケートをとらせながら、一体何だったのかというのが、この議員になるきっかけでもあったし、と思うんですけども。

だから、それについてはそういう経緯もありますので、できるだけ住民のほうにお返ししていただきたいという、これはもう個人的な……（「それは全然意味の違う」と呼ぶ者あり）はい。だから、意味はないと。ただ、そういうふうな関係で、私は最初に話が違うとった部分がずっとあるから、それはもう合併直前まで言いよったですよ。早く使ってくださいと、合併する前に使ってくださいと言いよったですよ。だから、そういう面もあって、利用していただけかなというふうに思っております。

そして、もうあと1点だからですね、どげんしようかと思いますが、祭りの補助金についてです。合併してすぐごろにお祭りの一本化とか、いろいろ市長が言われていて、その中で、結局、湖水まつりは補助金なしとか、武雄温泉春まつりはお祭り振興会にやった中から分けるとかですね、北方の四季の丘フェスタはそのままやるとか、いろいろ基準が違ったので、今後、補助金等交付する祭りについては、観光客、あるいは経済効果など費用対効果を見ながら、基準を設けて交付したいというふうに考えておりますということで言われて、途中途中、観光課長に尋ねとったですけども、結局、今まだ基準づくりをしているとかなんかない話ですよ、でも、もうここまで来たもんで、結局、今、それについてはどうなっているかお聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議員、いつも混乱されていますけれども、まず、平成22年の3月議会におきましては、私はお祭りの基準そのものをつくるつもりはないというふうに明言をしております。その中で、やはり行政というのは透明性が必要ですので、それにさかのぼること平成18年の12月議会では、補助金を交付する祭りについては、一定の基準を設けて交付したいというふうにありますけど、もともとお祭りに交付する金額というのは、前年を見て決まっているわけですね。例えば、こういうお祭りには、これだけ例えば振興会が交付しますというのがありますので、それが移動がない限りは、基本的にその前のパターンを踏襲しているということですので、これを例えば増額するとか減額するといったときには、合理的なことが必要だと思いますけれども、私自身とすれば、実際もう名目ではありませんけれども、暗黙の基準があると。それは、例えば2,000万円交付していたら、2,000万円のとおりということであれば、過去の暗黙たる基準があるということですので、それはそのまま交付をしますと、変えるときにはちゃんと基準を設けて交付をしたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

前年度並みということ踏襲ということに理解しました。ありがとうございました。